

平成19年度 第2回北九州市立図書館協議会 会議録

1 会議名

平成19年度 第2回北九州市立図書館協議会

2 議題

- (1) 指定管理者候補について
- (2) 「生涯学習拠点としての図書館のあり方について」の進捗状況について
- (3) 島郷分館の移転について
- (4) 図書館のあり方について

3 開催日時

平成19年11月29日(木)
14時00分～15時15分

4 開催場所

北九州市立中央図書館内
視聴覚センター第2会議室

5 出席者氏名

(1) 委員(棚次会長以下11名、欠席委員6名)

北九州市立大学学術情報総合センター長	棚次 奎介	会長
北九州市学校図書館協議会会長	吉田 幸雄	副会長
北九州市学校図書館協議会委員	勝山 優子	委員
(社)北九州市私立幼稚園連盟理事	有益 節子	委員
北九州市婦人団体協議会理事	浜崎 いつ子	委員
北九州市AVEの会副会長	長谷川 英代	委員
北九州市社会教育委員	服部 多恵子	委員
BUCH北九州 絵本とおはなしの会	高井 真紀子	委員
北九州児童文化連盟理事	佐山 幸子	委員
北九州市保育所連盟常任委員	中村 尋子	委員
(社)北九州市医師会理事	小金丸 史隆	委員

(2) 事務局(西岡中央館長以下11名)

中央図書館長	西岡 幸則
中央図書館副館長	熊埜御堂 義明
中央図書館庶務課長	井上 好二

中央図書館奉仕課長	山本 達臣
中央図書館庶務課庶務係長	河野 吉彦
中央図書館庶務課資料係長	永井 雄作
中央図書館奉仕課奉仕係長	豊田 善正
視聴覚センター館長	上田 誠
中央図書館庶務課庶務係	山本 清貴
中央図書館庶務課庶務係	田渕 崇寛
教育委員会生涯学習部長	林田 勉
教育委員会生涯学習課長	黒野 まゆみ
教育委員会生涯学習課管理係長	三瀬 茂弘
教育委員会生涯学習課管理係	舛田 覚

6 一部非公開の理由

『議題（４）図書館のあり方』の『４ 黒崎地区における図書館の必要性について』は、各委員の自由闊達な意見の交換を行うため、『附属機関の会議の公開に関する要綱』第3条第3号の規定に該当するものとして、非公開とする。

7 傍聴者

1名

8 会議次第

- (1) 開会
- (2) 中央図書館長挨拶
- (3) 委員自己紹介
- (4) 図書館職員及び教育委員会生涯学習部職員自己紹介
- (5) 議 事
 - ①指定管理者候補について
 - ②「生涯学習拠点としての図書館のあり方について」の進捗状況について
 - ③島郷分館の移転について
 - ④図書館のあり方について
- (6) 閉会

9 会議経過（発言内容要旨）

- (1) 指定管理者候補について

(事務局)

資料に基づき、

- ① 指定管理者候補及び選定理由
- ② 選定委員会及び選定方法
- ③ 応募団体の主な提案内容

を説明。

(2) 生涯学習拠点としての図書館のあり方について

(事務局)

資料に基づき

- ① **【基本的視点】 図書館ネットワークの構築**
 - ア 大学図書館等との連携
 - イ 図書館以外の図書施設との連携
 - ウ ひまわり文庫の見直し
 - エ 図書館の広域利用
 - オ ネットワーク統括機能の充実
- ② **【基本的視点】 市民の生涯学習活動を支える図書館**
 - ア 特色ある図書館づくり
 - イ IT機能の充実・活動
 - ウ 多様な生涯学習機会の提供
 - エ 広報及び情報公開
- ③ **【基本的視点】 こどもの読書活動を推進する図書館**
 - ア 乳幼児・児童・青少年へのサービスと子育て支援
- ④ **【基本的視点】 誰もが使いやすい図書館**
 - ア 開館日と開館時間の延長
 - イ 高齢者へのサービス
 - ウ 障害者へのサービス
 - エ 国際化へのサービス
 - オ 返却フリーの導入
 - カ 利用しやすい図書館設備
 - キ 成人へのサービス
 - ク 複写サービス
 - ケ 視聴覚資料の個人貸出
 - コ ハード面の充実・機能強化
- ⑤ **【基本的視点】 市民参画型図書館**

ア ボランティアの育成・活動
イ 図書館協議会の充実
を説明。

(委員)

図書館以外の図書施設との連携の中に、ムーブ図書室との連携はありますが、以前勤務していた女性に関する資料が充実していた門司勤労婦人センターとの連携はありますか？

(事務局)

ありません。今後またハード面のネットワークだけではなくソフト面のいろいろな情報交換・資料の提供は進めていきたいと思っています。

(委員)

インターネット、情報関連の電子化・データベースが実施されていないというのはなにか共通した問題があるのですか？

(事務局)

ハードでは利用者用パソコンの整備、ソフトではインターネット等を活用したデータベースでの資料・情報提供になり、初期投資に加え、ランニングコストが掛るため、なかなか実施できませんでした。

去年の4月に利用者用パソコンの増設・新電算システムを導入しまして、今段階的に整備しています。よって、新たなサービスを進めるためのインフラ整備が整いました。

例えば、インターネット予約では予約が入れば、予約分を書架から抜いて準備する手間など、人的にもコスト増となります。電子レファレンスについても回答する要員も場合によって必要となります。

(委員)

個別のサービスを提供しても、利用されなければ意味がないと思います。

これまで、実施したサービスの中で利用者が増えたようなものがありますか。

(事務局)

例をとって説明しますと、障害をお持ちの方への宅配サービスは平成18年度で延べ68人、261冊でございます。本年度まだ途中ですが11月までで延べ50人、241冊ということで利用冊数は年々増えています。

(3) 島郷分館の移転について

(事務局)

資料に基づき、

- ①概要
- ②建替場所
- ③仮移転先
- ④スケジュール (予定)
- ⑤施設概要

を説明。

(4) 図書館のあり方について

(事務局)

資料に基づき、

- ①現状と課題
- ②見直しの視点
- ③検討スケジュール等
- ④黒崎地区における図書館の必要性について

を説明。

10 問い合わせ先

教育委員会中央図書館庶務課

電話番号 (571) 1481